

〈様式2〉

令和5年度 体力向上における各校の成果(小学校)

大野市

教育委員会

No	学校名		成 果
1	有終西	小学校	ICT機器を積極的に活用することで、自分の動きの向上や気をつけるべき点などを客観的に見ることができ、運動が苦手な児童も意欲的に取り組むことができた。また、自分たちで撮影した動画を見合い、自然と友達同士でアドバイスし合う姿も見られた。 「マラソンカードポイントアップキャンペーン」には、連日全校生徒の6割前後の児童が参加した。運動が苦手な児童もたくさん参加し、すすんで運動をする雰囲気づくりができた。
2	有終南	小学校	業間体育で運動の習慣化を図ったためか、マラソン大会でのけが人が0人だった。また体力テストのシャトルランでは、5年女子のスコア以外は、県平均を上回った。準備運動のダンスでは楽しく体を動かす児童が増えた。
3	有終東	小学校	体力テストに向けての「東っ子ジム」、マラソン大会、なわとび大会に向けての強化練習を設定したことで、全児童が自分の目標に向かって熱心に取り組むことができ、体力の向上につながることができた。 体力テストに向けての「東っ子ジム」では、ほとんどの項目で前年度の記録よりもよくなっていた。(5年男子の立ち幅跳びの平均値は、昨年度より25.25cm記録がよくなった。) 体育ファイルを6年間使用することで、前学年の自分の記録と比較することができ、自分の成長を実感して喜ぶ児童の姿が見られた。さらに意欲的に運動に取り組む児童が増えた。
4	小山	小学校	マラソン大会前の体育では秒読み上げ再生とペアでの記録を行うことにより、目標ラップタイムを意識して走ることができた。 授業の流れをルーティン化することで児童の運動時間が確保できるようになった。 20mシャトルランの結果が男子は平均値を約17回上回る結果となり、女子も平均値を約8回上回る結果となった。
5	下庄	小学校	業間体育でマラソンを継続して実施した結果、体力テストで全学年、全身持久力が全国平均を上回った。 体育授業で一人一台端末を効果的に活用することで自分の動きを客観的に見たり、分析し合ったりする児童が増えた。 休み時間に外遊びをする児童が昨年に比べて増え、運動量も充実してきている。
6	上庄	小学校	体力テストでは、20mシャトルランにおいて4～6年生すべてで全国平均を上回った。また、その他の種目においても全国平均を上回ったものが多く、体育科の授業だけでなく、業間の活動や体育的行事の充実が体力向上につながっていると考えられる。児童への学校評価でのアンケート調査において、体育の授業や体を動かす遊びに力いっぱい取り組んでいると答える児童の割合は99パーセントであった。児童が達成感や充実感を感じて体育的活動に取り組んでいることがうかがえる。
7	阪谷	小学校	今年度は外部人材を活用し、走る・泳ぐ・跳ぶと幅広く専門的な指導を受けることができた。またICTを活用し動画記録を活用したことなどで、児童が自分の動きを客観的に捉えていた。器械運動の鉄棒の設置期間を長くしたことで、根気強く練習し、たくさんの技ができるようになった。
8	富田	小学校	めあてと振り返りを意識し、目標に向かって互いに声を掛け合い運動に取り組む姿が見られた。 学校評価項目「体育の授業や行事ではめあてや目標をもって取り組んでいるか」では、94%が肯定的な回答を示した。
9	和泉	小学校	縦割り班での活動を全校体育で続ける中で、学年を問わずリーダーとなってすすんで行動する姿や、学年に関係なくアドバイスしあう姿が見られた。 休み時間でもマット運動や鉄棒の練習をする児童が増え、基礎的な技の習得や高度な技の練習に取り組むようになった。 小・中併設の良さを生かし、全校での運動遊びにも中学生が積極的に参加する姿が見られ、小学生とともに楽しく運動を楽しむことができた。 スキー競技が盛んな地域の特性を生かし、アルペンスキー学習会を2回実施できた。2回とも児童たちは積極的に参加し、技能と意欲の向上につながった。また、冬季には週2回程度、クロスカントリースキーの特設クラブを実施し、スキー技術の習得や体力の向上に取り組み、大会ではよい結果を残すことができた。